

# Le moniteur de la mode : journal du grand monde

(ル・モニトゥール・ドゥ・ラ・モード)

Paris : [s.n.] , 1843—1910

Hiler p.626 Colas 2126 Lipper. 4646

1843年4月に始まり1910年まで続いた、パリ・モードを伝える女性向けのモード雑誌である。雑誌が数多く発刊された19世紀後半の中でも、長く続いたモード雑誌のひとつであろう。草創期はアドルフ・グーボー（Adolph Goubaud）による編集で、本館所蔵では1886年5月からアベル・グーボー（Abel Goubaud）により、毎週土曜日に刊行されたことが確認できる。

Hilerによると、「Le bon ton」と合併し、Le bon ton le moniteur de la mode unitedのタイトルで続き、英語版、フランス語版があった。本館には1846年から1900年まで、一部欠号はあるもののフランス語版が所蔵されている。

1846年のものは、28×18cmのオールプレートで、手彩色ファッションプレートが収められている。1847年4月—1848年3月、1853年10月—1854年3月号は、29×20cmの大ききで美しい銅版画が収められている。その後、雑誌の判は、世紀中ごろから大型化していく。本誌も1885年—1886年になると37×27cmとサイズは大きくなり、さらに1891年からは、39×30cmと大型化した。値段は1冊25サンチームで、型紙付きになると75サンチームであった。

1891年から1893年までは各号に精密で秀麗な手彩色銅版画のファッションプレートが添付されている。プレートの多くは1870年代以降に活躍した画家ゴナン（G.Gonin）、次いでダヴィッド（David）やルロワ（Leloir）の作品を数多く版刻したタイヤン（E.Tailland）らが手掛けている。図版に見られるように、ゴナンのプレートの多くはこの時期の特徴的なジゴ袖を美しく描き出している。

雑誌の内容は上流社会のためのモードや小説、芸術、演劇などの文芸が中心である。さらに、刺繍や裁縫など婦人たちの手仕事、家具や室内装飾、話題の出来事など多岐にわたる内容を扱っている。服飾関連の記事に関してはイラストを多用し当時の華やかな装いを伝えている。また、1880年代ころより、スポーツやレジャーが盛んになりはじめ、女性の活動範囲が広がった。そうした時代を反映し、海水浴、テニス、ゴルフ、乗馬など女性の各種スポーツ服が掲載されはじめる。そして、1890年ごろからはサイクリングが人気を呼ぶ。本誌では1895年よりサイクリング服が登場する。（北方晴子）



1893年10月28日号の外着。ゴナン原画